平成２７年２月定例会　総括審査会

矢島義謙議員

委　　員	矢島　義謙
所属会派（質問日現在）	無所属
定　例　会	平成２７年２月
審査会開催日	３月１９日（木曜日）

矢島義謙委員

　このたび本宮市安達郡選挙区から選出された無所属の矢島義謙である。よろしく願う。

　内堀知事は、就任以来、現場主義を全面に打ち出し、みずからが各地へ出向き、精力的に取り組んでいる。その活動は各方面から高く評価されている。１日も早い復興を目指して、引き続き活躍してもらいたい。

　震災から４年が経過した。先日発表の知事メッセージにもあるように、私たちは風評の固定化と記憶の風化という目に見えない困難や不安と闘っている。そのためかいまだに前向きに復興へ取り組むことができない方がいることも事実である。

　私は、長年にわたり活動してきた青少年教化研修会や人間塾を通して、人づくりにかかわってきた。その経験から、復興を着実に進めるためにはまず温かい県民性を取り戻すことが大事であり、子供から大人まで県民全体の資質や人間力を向上させるべきと考えている。福島の目指す将来の姿を実現するためには、現状を踏まえた上で人づくりに力を入れていくべきである。

　そこで、復興を着実に進めるため、人づくりにどのように取り組んでいくのか、知事の考えを聞く。

知事

　複合災害に見舞われた本県は、課題が複雑多様化しており、これを克服し、復興をなし遂げるためには多くの時間と労力を要することが予想される。

　そうした中、厳しい状況を一歩一歩乗り越えようと懸命な努力を続けている県民がいる。

　先日の復興シンポジウムの中で、「ゼロの町に人の暮らしを取り戻す」との気概のもと、帰還の準備に通う地域住民等への温かい昼御飯の提供により地域コミュニティーの再生を目指している企業の経営者や、小学生が会社設立や商品開発などの一連の流れを体験し、起業家精神を養う取り組みを行う責任者などが、「大人が子供たちに頑張っている姿を見せないといけない。」と熱く語る姿に接し、私は、こうした一人一人の取り組み、チャレンジが福島の誇りを取り戻し、復興へと導く大

きな力になると考えている。

３月11日に公表した私のメッセージの中で「学ぶことによって私たちは、未来とつながる。」とのある教師の決意を紹介した。

私は、どんなに困難なときでも、相手を思いやりながら、力を合わせて挑戦していく新生ふくしまを支える人づくりにしっかりと取り組み、あしたのふくしまを切り開いていく。

矢島義謙委員

特に、次代を担う子供たちには、人が生きる上で必要なルールやマナー、社会規範などを身につけ、人としてよりよく生きることができるようになってもらいたいと思う。そのことが本県の安定的で持続可能な発展の基盤となると考えるからである。

そこで、県教育委員会は、子供たちの生きる力を育むため、道徳教育の充実にどのように取り組んでいくのか。

教育長

道徳教育は、命を大切にする心や人を思いやる心などを育み、生きる力の基盤となるものであり、これまで本県独自の道徳資料集を各学校で活用するとともに、教員の研修やモデル校の実践研究を促進してきた。

今後は新たな道徳資料集を加えた全３巻を県内の小中学校の全学級に配付するとともに、家庭、地域との連携を図るためのリーフレットを発行するなど、道徳教育のさらなる充実に努めていく。